

勝山市長 池田勤也

ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた昭和五十八年の新春をお健やかに迎えのことに存じお喜び申し上げます。
昨年はおかげさまで、市民の皆さんのご協力により、市政の各般にわたって堅実な成果を収め得ましたことに對し、衷心より厚くお礼を申し上げます。

しかしながら、私どもが多年にわたり望んでおります生活環境の整備をはじめ教育福祉施設の充実など、今後に残された重要な課題もなお山積している状況であります。国の行財政改革の影響は、地方自治体にも及び、本市の財政状況は、今後さらに厳しさを増すものと予想されます。

このようななかにあつて、勝山市は、いま、
○創造力豊かな精神文化の誇り高い人間都市づくり
○産業経済の調和のとれた安らぎの田園都市づくり
○創意工夫の盛んなソフト産業都市づくり
を三本の柱とする「情操環境都市」の建設をめざし、力強く踏み出しております。
この輝かしい新年にあたって、極めて厳しい財政事情ではありますが、市勢伸展のための諸事業の実現に努め、市民福祉の向上をはかってまいりたいと存じております。今後とも、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



勝山市議会議長 今井三右衛門

ごあいさつ

昭和五十八年の新春を迎え、謹んでお喜びのごあいさつを申し上げます。
新年を迎えるにあたり、さらに決意を新たにいたしまして「自治と分権」を基本理念とした真の地方の時代を確立し、個性豊かな魅力ある都市を実現すべく最大の努力を傾注する所存でございます。

さて、現下の諸情勢は、まことに厳しく国家的行政課題はもとより、市政の諸問題がまさに山積をいたしておるのでございます。市議会におきましては、昨年、縦横不況対策特別委員会を設置するなど、鋭意これら諸問題の解決に取り組んでまいっておりますのでございますが、行政改革の波の中で、ことしは、さらに厳しい対応を迫られることは必至と言わざるを得ません。

かようなときにあたり、私どもは、市議会の果たすべき使命の重要性を再認識し、新しい時代の要請にこたえ得るよう市議会機能の充実向上をはかりつつ、市民の皆さんの総力と英知を結集して、難局の打開にあたることに、来たるべき二十一世紀へ向けての限りない躍進のために、微力を尽くす所存でございます。
市民の皆さん方の倍旧の御支援を、心からお願ひ申し上げる次第でございます。おわりに、ことしは、各位にとりまして、幸い多い年でありませうよう祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

越前大仏

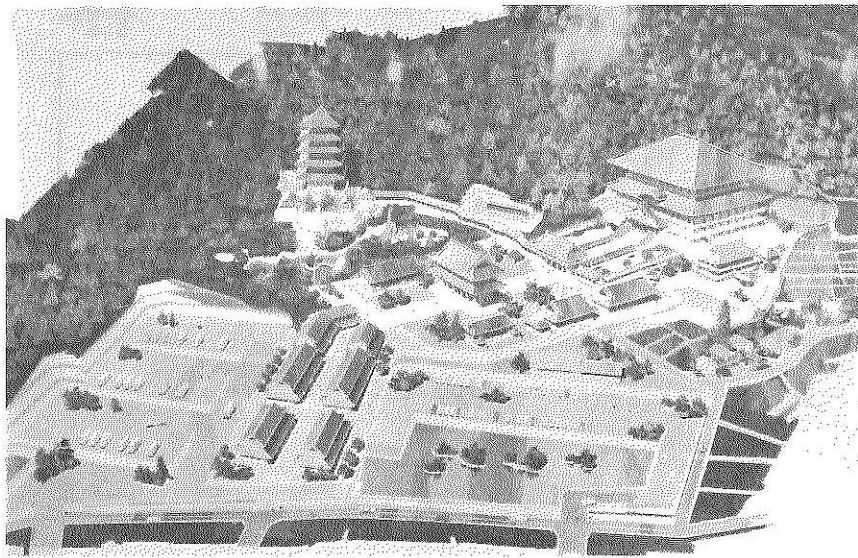
大仏殿の基礎工事すすむ

昨年、四月二十五日、越前大仏の起工式が盛大に行われ、片瀬地区の建立地では、すでに大仏殿の造営工事が始まっています。

組みが、皆さんの前に姿を現します。今後は、五重塔、九龍壁、大門などの工事発注がなされる予定です。

現在、基礎工事が順調にすすめられていますが、従来のくい打ち込みとは違い、ベント工法といって直径二メートルの管を地中に押し込み、中の土を抜いて、鉄筋コンクリートで固める方法がとられています。その数は百四十六本。

一方、京都市上鳥羽の特設ジャンボ工場では、金井工業建造所（金井信義社長）の人たちによって、大仏の原型がようやく完成に近づき、その偉容を現しました。今年はこの原型を百五十六個に分解し、鑄型をつくり銅を流し込む作業に入る予定です。すでに、同工場には銅二百トンが運び込まれ、その作業を待つばかりです。この作業は六十年まで続けられ、そのころ出



▲大仏殿など諸堂塔配置予想図

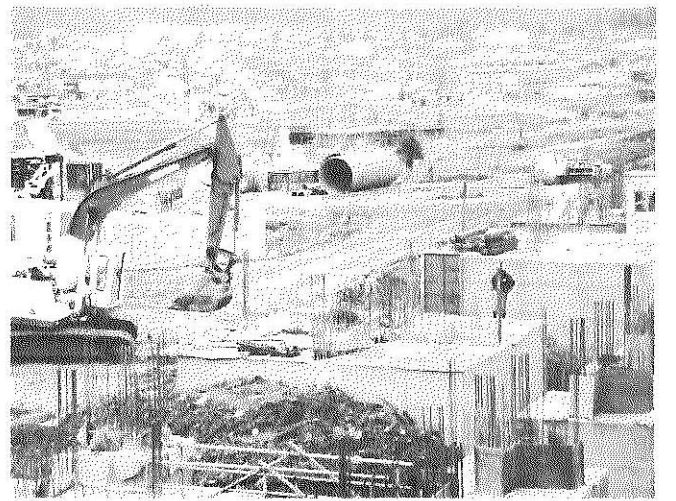
き上がる大仏殿の中で電気溶接によって組み立てられます。大仏の両脇には、脇侍仏（わかきじぶつ）として羅漢（らかん）菩薩（ぼさつ）が安置され、三方の壁には十一段に区切った欄をつくり、大小合わせ千四百体の石仏・金仏を安置します。この石仏は、中国や韓国、四国から取り寄せられ、大阪・相互タクシー株式会社本社敷地内に仮安置され、勝山への移送を待っています。

広域的な観光ルートを

こうして、造営工事、大仏製作がすすむなかで、市はこの越前大仏を、「恵まれた自然と、祖先の残した文化遺産とを有機的に結合させ、面的観光の性格をもつ、通年型、家族志向型の観光レクリエーションの基地にしたい。」と考えています。

しかし、今後の課題として、交通問題、ゴミ問題など生活環境に関する諸問題が残されています。

年間百二十万人の観光客が大仏を訪れると見込んで、単純計算でも一日あたり約三千人、大型バス五十台の勘定になります。その交通対策としては、福井・勝山、勝山・小松間が国道に



▲大師山山ろくでの大仏殿の基礎工事



▲全容を現した実物大の原型

ゴムの処理対策についても、市では、観光客によって大量に排出されるゴミを、十分処理できるようと、いま、クリーンセンター建設計画をすすめています。

次に観光に欠かせない土産品ですが、これは市と市商工会議所などで検討され、このほど勝山名産会を設立。勝山の目玉となるような土産品の研究をすすめています。

昇格し、四車線道路も夢でなくなり、現在、この用地買収も始められています。市内では、この国道と直結するバイパスの建設を六十一年をめどとし、長山トンネルの貫通をはじめとする東縦貫線の整備延長がすすめられています。

これには、宿泊客の場合とか観光シーズンにおける場合など、あらゆるケースを想定し計画が練られています。

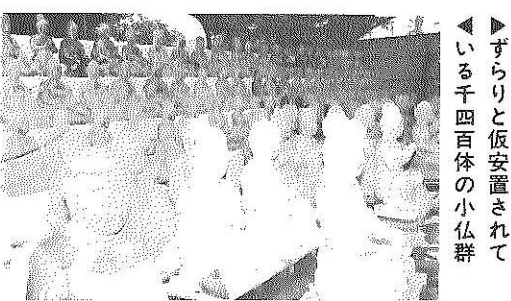
下水道事業も、片瀬土地区画整理区内は六十年に供用開始できるよう工事が行われています。

域的なルートを設定し、それにとまなう宿泊施設についても、市内の旅館経営者との話し合いを行う一方、昨年から始めている温泉適地調査を、今年はいよいよすすめた調査を検討中です。このように市としても大仏建立に対応できるよう計画をすすめているところですが、これをもっと全体的な問題として、市民の皆さんにも考えていただきたいと思っています。

寺号は 大師山清大寺

越前大仏は、当市出身で名誉市民第一号の大坂・相互タクシー株式会社の多田清社長（初）が、郷里の地である勝山に信仰的観光施設を建設して市の発展に役立てたいと、四十一年ころ発心されたものです。

近年に至りようやく具体化、昨年着工し、六十二年春に完成



▲ずらりと仮安置されている千四百体の小仏群

完成後は、寺号を大師山清大寺と呼称される予定です。大仏の本体は、身の丈が十七メートルで、三・三メートルの蓮台に座ります。背光もつけられ、全体の高さは二十五・五メートル、奈良東大寺の大仏より少し高くなります。

写真は、京都市上鳥羽の特設工場ではほどこされた越前大仏の原型。顔・形は中国洛陽市の石くつ奉先寺の龍門大仏がモデルとなっています。奈良東大寺の大仏が、ずんぐり型なのに比べ、顔、首はスマートで、表情はおだやかなのが特徴です。

昭和五十七年十一月撮影

インフルエンザ(かぜ)の予防とかがったときの注意

インフルエンザ流行の時期になりました。お互いに気を付け予防に努めましょう。

- ▽外から帰ったら、必ずうがいをする。
- ▽バランスのとれた食事をし、栄養を十分とり、体力をつける。
- ▽夜ふかしなど不摂生にならないように、疲労を避け、睡眠を十分とる。
- ▽汗の後始末をよくし、湯上がりの冷え（湯ぎめ）などに気をつける。
- ▽気温の変化に注意し、冷え込むときなど、とくに注意する。
- ▽病弱な人は抵抗力がないのでとくに注意する。
- ▽寒さにより、衣類、寝具を手まめに調節し、保温に努める。

もしインフルエンザにかかってしまったら

何はともあれ、安静を保つことが先決です。熱が出たり症状がひどい場合は、すぐに医師の診察を受け、その指示に従ってください。



Ryu.